

# 第2期

## 那珂市アグリビジネス戦略



令和8年3月

## 目次

序論 .....	1
1. 戦略策定の背景と目的.....	2
2. 計画期間 .....	2
3. 那珂市農業の概況.....	3
(1) 位置・地勢 .....	3
(2) 農業振興 これまでの取り組み .....	4
(3) がんばる那珂市の農業人（団体） .....	8
(4) 那珂市のおいしい農畜産物たち .....	10
(5) 自慢の加工品 .....	16
(6) 統計からみる那珂市の農業 .....	17
4. 現状と課題の整理.....	20
5. 国・県の方向性、支援策.....	21
(1) 国の方向性、支援策 .....	21
(2) 県の方向性、支援策 .....	23
第2期那珂市アグリビジネス戦略.....	26
1. 基本方針と基本目標.....	27
(1) 基本方針 .....	27
(2) 基本目標 .....	28
2. 施策体系 .....	31
3. 「農業で稼ぐ」いい那珂プロジェクトの推進.....	32
基本目標1 農業の収益力向上 .....	32
基本目標2 担い手の育成支援 .....	34
基本目標3 持続可能な農業の推進 .....	35
横断的な目標 ICT・IoTの活用推進 .....	36
参考資料 .....	37
用語集 .....	38

# 序論

# 1. 戦略策定の背景と目的

本市では、高齢化等に伴う農業者の減少による地域活力の減退や、遊休農地の増加等の問題があり、農業後継者や新規就農者、担い手を確保することが課題となっています。本市では、農業の収益力向上や農業の魅力向上などによる担い手の確保を目指した取り組みを進めていますが、これらの取り組みをより一層強化していくことが必要となっています。

こうした背景から、本市においても、地方創生の更なる充実、深化に向け、切れ目なく取組を進めるため、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」や「第2次那珂市総合計画 後期基本計画」、その他関連計画との整合を図りながら、地域ビジョンを再構築し、その実現に向けて、2025年3月に第3期総合戦略にあたる「那珂市デジタル田園都市構想総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定し、「収益力向上」「担い手の育成支援」などを推進する『農業で稼ぐ』いい那珂プロジェクト』を掲げています。

「第2期那珂市アグリビジネス戦略」は、本プロジェクトを軌道に乗せ、さらに本市の農業の持続可能性を高めていくためのより具体的な施策を実践していくために策定したものです。



# 2. 計画期間

アグリビジネス戦略の計画期間は、令和8年度から令和12年度とします。

なお、総合戦略は、本市を取り巻く環境や時代の流れの変化に合わせて施策や事業を随時改定できるものであり、アグリビジネス戦略においても、計画期間内の総合戦略の随時改定に合わせた改定や、事業成果の検証に基づく修正等を行っていきます。

### 3. 那珂市農業の概況

#### (1) 位置・地勢

那珂市は、東京から北東へ約 100km 余り、茨城県の中央よりやや北よりに位置し、東側は原子力の東海村、工業都市の日立市とひたちなか市に、南側は県都水戸市に、西側は城里町、北側は常陸大宮市と常陸太田市にそれぞれ接しています。

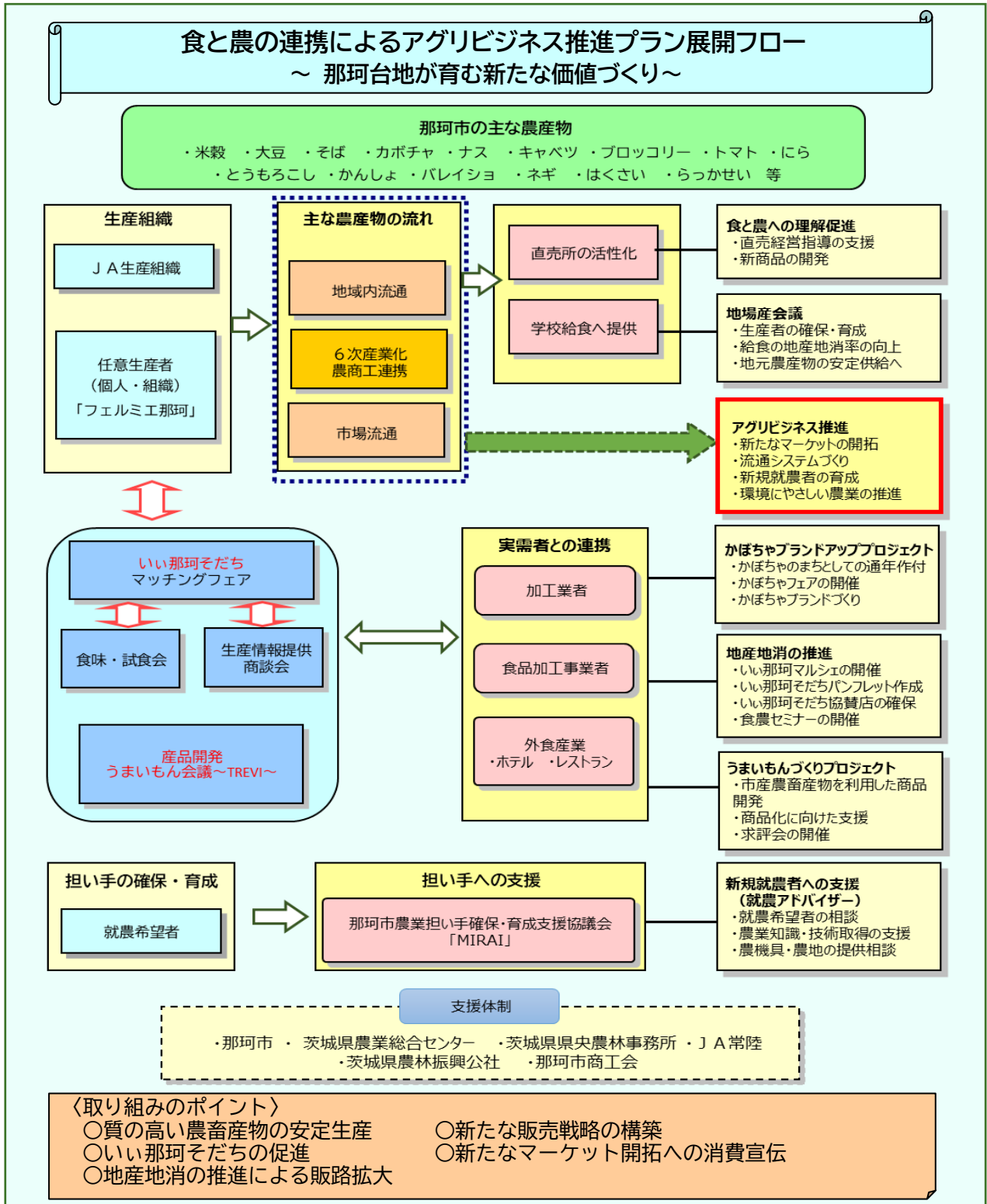
那珂市の北側には久慈川が西から東へ、西側には那珂川が北西から南東へと流れており、沿岸では稲作が行われています。

中央に広がった那珂台地は、水はげがよく肥沃な黒ボク土が分布しており、気候も温暖であることから、多種多様な野菜類が生産されています。



## (2) 農業振興 これまでの取り組み

本市は関係機関・団体と連携しながら、平成 28 年から「農業では稼ぐいい那珂プロジェクト」を軸にアグリビジネス専門監の監修のもと、次のアグリビジネス推進プランを描き、生産から出荷の流れに食の観点を取り入れ、農畜産物の生産振興や新たな流通システム・マーケットの開拓、地域ブランドづくり等による農畜産物の需要拡大を図り、農業経営の安定化と地域の活性化に取り組んでいます。



## ●活動実績

### ①マッチングフェアの開催

平成28年から令和7年まで10回開催し、生産者と実需者との取引のきっかけづくりや実際に取引に至った事例がありました。令和7年度においては、生産現場に来ていただくバスツアーを開催しました。



### ②地産地消の推進による販路拡大

平成29年11月から「いい那珂マルシェ」を開催し、市内外の消費者と生産者の交流を図り、那珂市産農畜産物の魅力を消費者の方に直に伝えることができました。



### ③学校給食への那珂市産の農産物の提供



## ●活動実績

### ⑤那珂市産の農畜産物を利用した産品開発（うまいもん会議～TREVI～求評会）

うまいもん会議～TREVI～にて、農畜産物を使った産品を事業者に出品してもらい、商品開発に向けてプロの目線より味、見た目、価格、独自性、将来性についての求評会を令和5年度より開催しています。審査員等からの意見等を事業者へフィードバックし、産品のブラッシュアップを図り商品化を目指します。



### ⑥いい那珂そだち協賛店

フェルミエ那珂が主体となり那珂市産の農畜産物を取り扱う事業者をいい那珂そだち協賛店として募り、事業者と共に農畜産物の販路拡大に係る積極的なPR及び地産地消の普及拡大に努めました。

○飲食店・菓子店等 市内：17店舗、市外6店舗

### ⑦那珂のかぼちゃブランドアッププロジェクト

年間を通してかぼちゃを楽しめる「かぼちゃのまち那珂市」を目指して、令和2年から抑制栽培のかぼちゃの作付け取組がスタートしました。那珂のかぼちゃを楽しんでもらう「いい那珂かぼちゃフェア」のイベントを開催し、直売所、地元スーパーマーケット、市内外のレストラン等などの協力をいただきながら、那珂のかぼちゃのおいしさを広めているところです。

今後は、菓子製造業や飲食店など実需者との連携により、新たな加工（ペースト）や商品開発を推進し、かぼちゃの生産拡大を目指します。





### (3) がんばる那珂市の農業人（団体）

#### 那珂市アグリビジネスネットワーク「フェルミエ那珂」

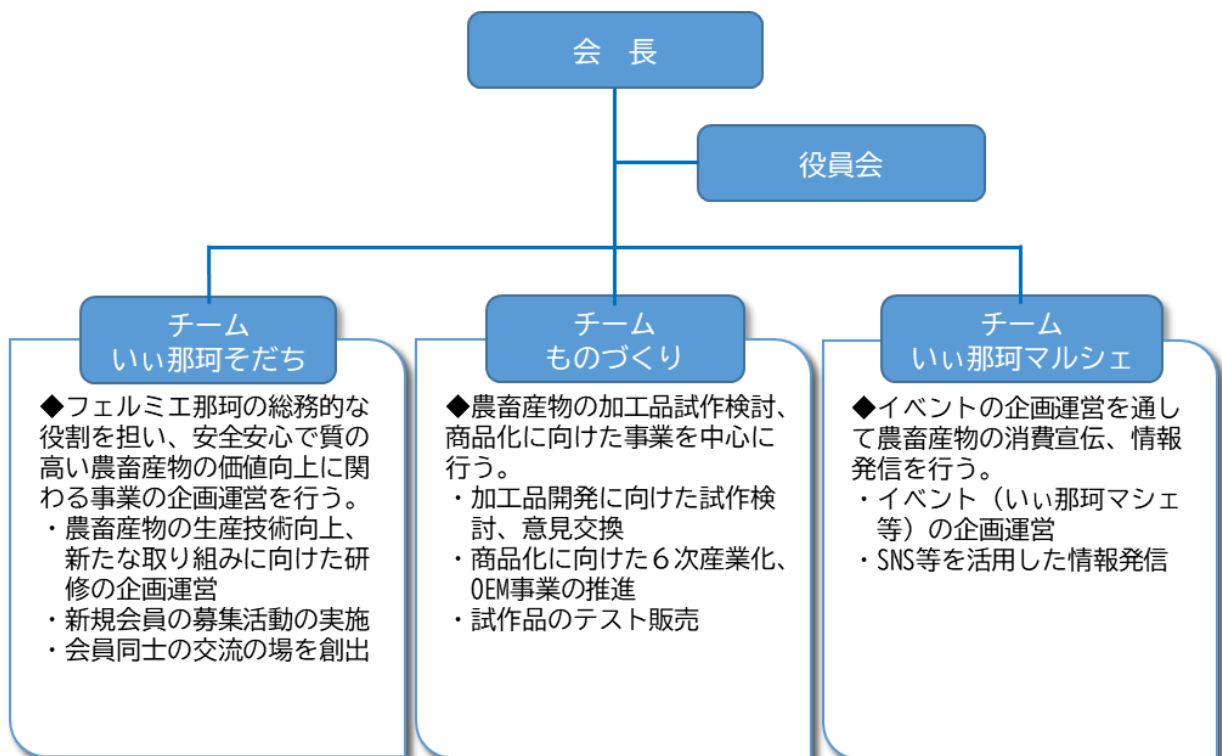
フェルミエ那珂は平成29年4月に結成され、現在会員は農家をはじめ、JA常陸ひたちなか営農経済センター、直売所、飲食店など54者が加入しています。

フェルミエ那珂では、消費者や取引事業者との直接対面による商品のPRを行うマッチングフェアを開催するほか、会員相互の情報交換、各種研修会を開催し、生産技術の向上や流通手段の拡大など、儲かる農業の実現に向けた取組を積極的に進めています。令和6年からは会員の運営体制について、会員一人ひとりの意見を反映することを目的に部会（通称：チーム）を導入しました。

また、地産地消の推進として、「いい那珂マルシェ」を開催し、地元の消費者の方との交流をとおして、那珂市産の農畜産物の魅力発信を行っています。



#### 那珂市アグリビジネスネットワーク「フェルミエ那珂」体制図



### 農事組合法人「那珂アグリ」

20代前半から40代のメンバーで、遊休農地を活用してじゃがいも、蕎麦、ビール麦などの作物を育てています。月に1回、メンバーで集まって情報交換や今後の作付スケジュールの確認を行い、若い力を活用して収益を上げることに成功しています。

現在、時期によって繁忙期が異なる各農家で働けるような人を雇用することを検討中です。

### 農業後継者クラブ「B☆NAS」

活動を通じて、農業後継者としての知識を習得し営農改善を図る活動を行っています。また、抑制かぼちゃ「恋するマロン」を作付けし、かぼちゃブランドアッププロジェクトにも積極的に参加しています。

### JA常陸 那珂地区かぼちゃ生産部会

JA常陸那珂地区かぼちゃ生産部会は16名以上の部会員で構成され、品質・食味の高い那珂かぼちゃを生産しています。

那珂地区で那珂かぼちゃの栽培が始まったのは30年以上前。この地域で特産品と呼べるものを作ろうと行政機関・農協・市場が協議し、かぼちゃ栽培に乗り出しました。当時はかぼちゃ栽培の知識がなく、苦勞したこともありましたが関係者の技術指導の下、栗のようなホクホクとした食感と完熟された甘味を持ったかぼちゃを栽培できるようになり、2020年4月、「那珂かぼちゃ」は県内で5番目の「地域団体商標」に登録されました。



## (4) 那珂市のおいしい農畜産物たち

### 1) ブランドの全体イメージ

水はけの良い那珂台地には保肥性の高い黒ボク土が分布し、また那珂川と久慈川の豊富な水により干ばつに強く、平坦であることから日照時間も長いため、多種多様な野菜がすくすくと育つ地域です。

生産者の結束力も高く、生産技術等の情報交換なども活発に行われていることから高品質、安全安心な野菜が栽培されています。

県庁所在地水戸市と隣接し、東京圏にも近いことから、大消費地に新鮮な野菜を供給することができます。

### 2) ブランド化が進んでいる農畜産物

#### かぼちゃ

##### 【那珂かぼちゃ】

栗のようなホクホクとした食感と濃厚な甘さで全国に根強いファンを持つ那珂かぼちゃは、完熟させてから収穫するためおいしさがギュッとつまっています。「見た目より重く、美しいグリーン色」がおいしいかぼちゃの特徴で、ちょっとの塩と砂糖で煮つければ本来のおいしさがわかります。収穫期は6月から7月頃です。

2020年4月、県内で5番目の「地域団体商標」に登録されました。



##### 【恋するマロン】

那珂かぼちゃが那珂市のブランド野菜として定着していく中で、通年出荷可能な品種を生産し、那珂市のかぼちゃを一年中楽しんでもらえるよう、プロジェクトを立ち上げて検討を重ねた結果、秋採れでもおいしく、独特のホクホク感で栗のような甘みのある品種である「恋するマロン」の生産を推奨することとなりました。

ペースト状にしたものはスイーツの原料などにも適しており、市内外や近隣の菓子店とのコラボレーションを進めています。



## さつまいも

### 【ほしいも】

本市とひたちなか市、東海村が位置する那珂台地は、さつまいもの生産に適しています。

また、ミネラルを含んだ潮風、冬季の長い晴天により高品質なほしいもができることから、ひたちなか・東海・那珂地域が日本一の産地となっています。

日本一の産地として、良品質なほしいもの生産及び販売推進などを図るため、「ひたちなか・東海・那珂」の3市村で協議会が設置されています。



### 【EPISODE XⅢ(エピソード 13)】

従来天日干しが主流だったほしいもは、天候条件に合う土地で生産されてきましたが、機械乾燥が普及したことで、天候条件に関係なく全国各地で生産されるようになってきました。

こうした中で、本市の三ツ星生産者※は、専門家を交えたプロジェクトチームを立ち上げ、土づくりや品種などに厳しい基準を設けることで、厳選された高品質で付加価値の高い「EPISODE XⅢ」を開発しました。

「EPISODE XⅢ」とは品種「泉13号」に由来します。本市では今日まで80年以上にわたり生産されており、この長い歴史をこれからも末永く紡いでゆくという思いが込められています。近年、食感や味で人気のある「べにはるか」も商品ラインナップに加えました。また、顧客のニーズに合わせて、化粧箱を用いることで高級感を出したり、販売方法にも工夫を凝らすことで、他の産地との差別化に取り組んでいます。

このような高級ほしいもは、百貨店や有名ゴルフ場などで好評を得ています。

※三ツ星生産者とは

生産履歴管理、衛生加工管理及び適正品質表示など安全安心な生産加工に取り組む生産者を指し、ひたちなか・東海・那珂ほしいも協議会が認定します。



## なす

### 【奥久慈なす】

定期的な研修会を開催して、品質を追求した栽培を常に行い、土づくりには良質な牛糞堆肥などの有機肥料を使い、太陽の光がたっぷりあたるように、丁寧に剪定して、黒いダイヤのような艶のある色に仕上げています。

たっぷりと太陽の光を浴びた大自然の恵みがフルーティで甘味のある味わいや皮の柔らかさ、アクの少ない果実に育てます。

煮る、焼く、炒める、すべての調理法に向き、万能食材といわれ、首都圏では好評を得ています。



## 米

### 【コシヒカリ・にじのきらめき】

那珂市産の米は、那珂川と久慈川が流れ、自然豊かな那珂台地のもと古くから稲作が盛んな地です。米は、那珂市の農業産出額1位であり、「コシヒカリ」のほか極良食味で高温耐性のある「にじのきらめき」も好評を得ています。



## 畜産

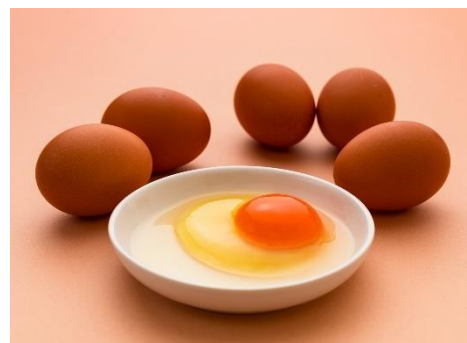
### 【常陸牛】

茨城県のブランド牛「常陸牛」は、豊かな自然環境と厳選された飼料、そして生産者の高い技術と愛情をによってじっくりと育てられ、きめ細かな肉質ととろけるような上品な霜降りが特徴で、全国トップクラスのブランド牛です。



### 【ひまわりっこ】

自然豊かな那珂台地の広大な敷地で、昔ながらの平飼いによりひよこから丹念に飼育され、特別な飼料で育った健康な鶏卵は、鮮やかなオレンジ色で弾力のある黄身が特徴で、甘みとコクがあります。



## そば

### 【常陸秋そば】

常陸秋そばは、茨城県が開発した奨励品種のブランドそばです。粒が大きく、香りと風味が豊かなのが特徴で、その品質の高さから「玄そばの最高峰」と称されています。多くの市内外のそば店で使われています。

また、生産者がOEMにより、那珂市産のそば粉の比率を増やした乾麺を生産し、好評を得ています。



### 3) 那珂野菜のブランド化

#### —主な那珂野菜とその特徴—

##### ごぼう

かつては有名なごぼうの産地でもあり、受け継がれた技術が特徴ある深みのある味を引き立てており、今でも根強い人気があります。

##### トマト

酸味と甘みのバランスがよく、料理を引き立たせます。

##### ねぎ

柔らかくて歯ざわりがよく、煮ても焼いても風味豊かで、甘みが強いのが特徴です。

##### ほうれんそう

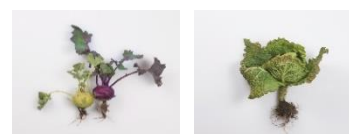
みずみずしく、葉肉に厚みがあり、えぐみの少なさとうま味の濃さが人気です。

##### にんじん

味が濃厚でみずみずしく、あっさりとした甘さが特徴です。

##### 西洋野菜

いろいろな野菜が作れる那珂台地だからこそ、多品種の西洋野菜が作られており、レストランからの人気が高まっています。



#### 4) 生産者の「こだわり」野菜

那珂台地は、温暖な気候で様々な動植物の南限北限となっており、このような気象条件を生かして多種多様な野菜類が生産されています。また、こだわりを持った生産者が育てた野菜は、スーパーや飲食店から「指名」され、高値で取引されています。

本市では、このようなこだわり野菜を「かぼちゃ」や「さつまいも」「なす」に続くブランドとして育てていくことを目指しています。



アスパラガス  
～飲食店指名買いのアスパラガス～



中玉トマト  
～糖度が高くフルーティなトマト～



スイートコーン  
～甘くてみずみずしいとうもろこし～



コールラビ  
～シャキシャキ食感のコールラビ～



カラー人参  
～彩り豊かなカラー人参～



エディブルフラワー  
～華やかに彩る食べられる花～

## (5) 自慢の加工品

本市では、産業の振興と元気で活力あるまちづくりのため、本市らしい商品のブランド化を進めています。

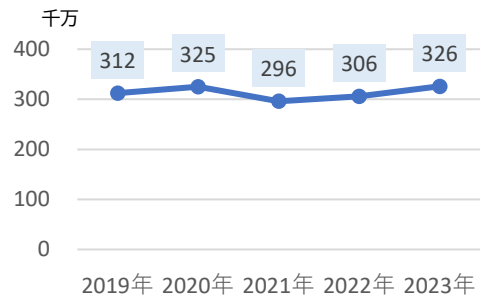


## (6) 統計からみる那珂市の農業

### ① 農業生産と出荷の状況

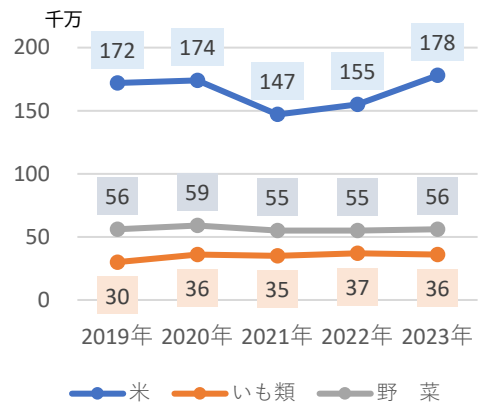
#### 【農業産出額(合計)】

那珂市の農業産出額は、30 億円前後で推移しています。



#### 【農業産出額(上位3部門)】

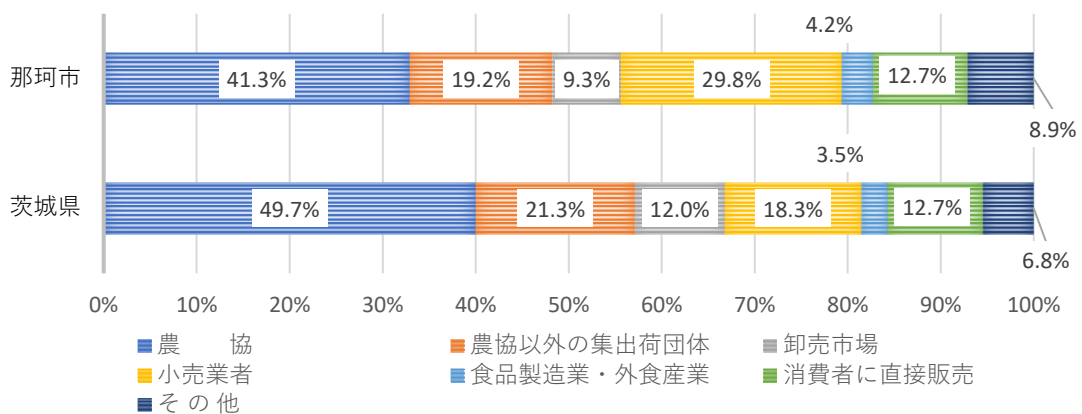
産出額上位3部門は「米・野菜・いも類」で、米の産出額は2021年減少したものの上昇傾向、野菜といも類は、ほぼ横ばい状況向となっています。



出典：農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」  
(RESAS 産業構造マップ\_農業の構造)

#### 【農業出荷先別経営体数の割合】

市内の農業経営体の出荷先を茨城県全体と比較すると、農協への出荷割合が1割近く低く、小売業者への出荷割合が約1割高くなっています。

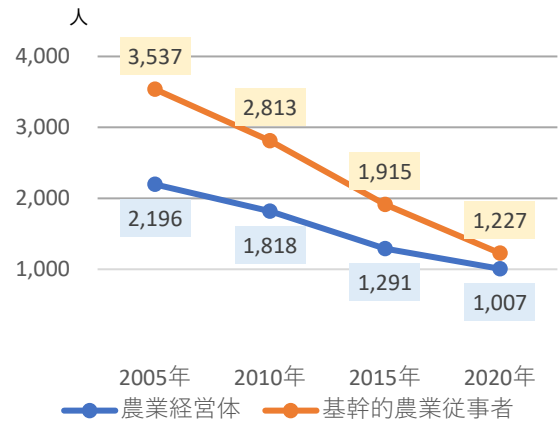


出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工 (RESAS:産業構造マップ\_農地分析)

## ②担い手の状況

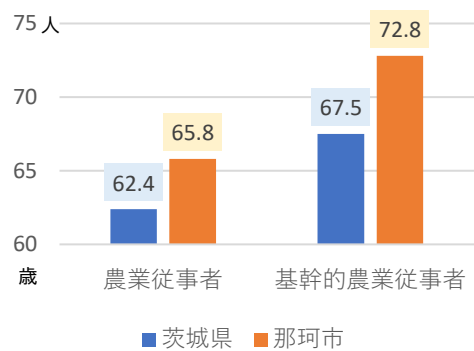
### 【農業者数の推移】

農業者数は、農業経営体、基幹的農業従事者とともに大きく減少しています。



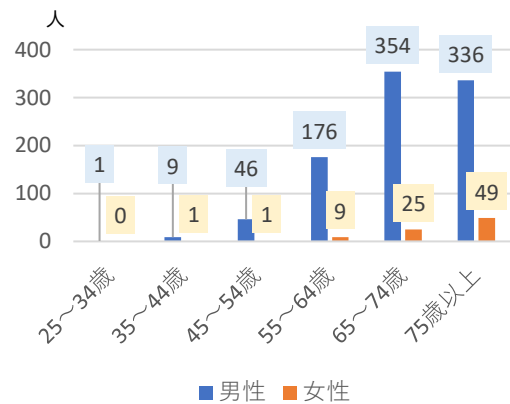
### 【平均年齢(2020年)】

農業従事者、基幹的農業従事者ともに茨城県平均を大きく上回っています。



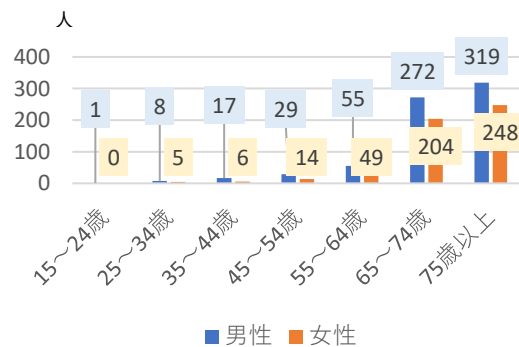
### 【年齢別農業経営体数(2020年)】

75歳以上の農業経営体が最も多くなっていますが、若手もみられます。



### 【年齢別農業従事者数(2020年)】

農業経営体と同様に、75歳以上の基幹的農業従事者が最も多くなっていますが、若い従事者もみられます。



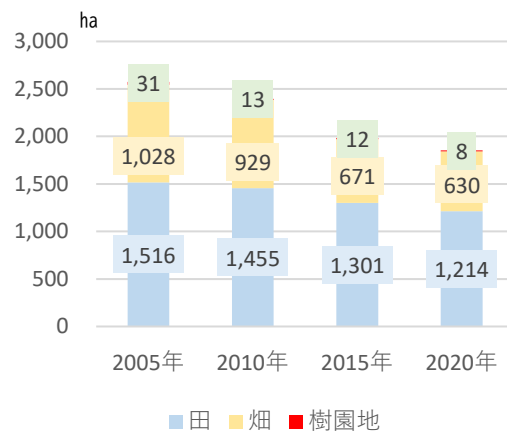
出典：農林水産省「農林業センサス」再編加工  
(RESAS:産業構造マップ\_農業者分析)

### ③農地の状況

#### 【経営耕作面積の推移】

経営耕作面積は減少しており、2005年と比べて樹園地は26%、畑は62%、田は80%に減少しています。

減少した面積が最も大きいのは畑で、10年間で39ha減少しています。



## 4. 現状と課題の整理

那珂市では、水はけがよく肥沃な台地と那珂川と久慈川の豊富な水資源、そして温暖な気候により、多種多様な農畜産物が生産されています。

野菜作りのプロ集団や農業後継者グループが組織され、名人による技術指導や生産者同士の積極的な情報交換などにより、高い技術と意欲をもった生産者が増加し、質の高い農畜産物を出荷しています。

また、特産品づくりとして、こだわりを持った「かぼちゃ」の生産に長年をかけて取り組み、那珂市の野菜といえば「かぼちゃ」と言われるようになり、「那珂かぼちゃ」として地域団体商標に登録されました。

この「那珂かぼちゃ」に加え、那珂台地の特産品である「ほしいも」、県の広域銘柄推進産地の指定を受けている「奥久慈なす」が、那珂市のブランドとして定着しました。

こうした取り組みを進めるほか、各生産者は様々な種類や品種の野菜を、それぞれのこだわりを持って生産しており、近隣の飲食店などでも那珂野菜の評価が上がってきています。

さらに、「いい那珂マルシェ」による消費者と生産者の対面販売や野菜ボックスの販売、マッチングフェアを通じたレストラン等の実需者への直販など、作り方だけでなく売り方の工夫にも取り組み始めています。

しかしその一方で、生産者の高齢化による廃業・離農や遊休農地の増加が続いており、那珂市農業を持続可能なものとしていくためには、担い手の確保が大きな課題となっています。

担い手を確保していくためには、まずは農業の魅力を高めることが必要で、収益力のある農業、「儲かる農業」を実現し、それを発信することで、「後を継ぎたい」「農業をやってみたい」人を増やすことが必要です。

次に、農業の技術習得や農地・農機具等の手配、地域での生活支援などにより、円滑な就農と定着を促していくことが必要です。

加えて、未来の那珂市の農業を支える人材を確保するため、市内の子どもたちや市外の若者に対して那珂市農業の魅力を知ってもらい、「農業関係人口」の増加を促していくことも重要です。

「儲かる農業」  
の実現

農業後継・新規就農者の  
確保と定着促進

「農業関係人口」の増加

## 5. 国・県の方向性、支援策

### (1) 国の方向性、支援策

#### ①デジタル田園都市国家構想総合戦略より

農林水産業の成長産業化	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地の集約等による生産コストの低減等を通じた所得向上</li> <li>物流の効率化等を通じた安定した流通の確保</li> <li>6次産業化や農泊などの複合的な経営の推進</li> <li>農作業の効率化や省力化に向けたスマート農業の推進</li> </ul>
地域の魅力のブランド化	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源を活用した新たな商品の開発、マーケティングやブランディング</li> <li>地域の生産者を取りまとめてプロデュースする地域商社の育成支援</li> </ul>
地方移住の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住による就農希望者に対する農地付き空き家の取得推進</li> <li>地域おこし協力隊員等の起業・事業承継支援</li> </ul>
未来技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロボット、AI、IoTなどの活用による省力化、自動化</li> <li>気象、栽培棟のデータ収集・活用による生産性向上、高品質な農産物の安定生産</li> </ul>

#### ②食料・農業・農村基本計画より(2025年4月閣議決定):農林水産省

消費者と食・農とのつながりの深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験、農泊、都市農業、地産地消などの取組間の連携強化により消費者と農業者・食品関連事業者との交流促進</li> <li>学校や病院等施設の給食における地場産食材の活用</li> <li>ECサイトやSNSの活用等による産地と消費者が結びつく取組の推進</li> </ul>
力強く持続可能な農業構造の実現に向けた担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営改善を目指す農業者を幅広く担い手として育成・支援</li> <li>認定農業者等の重点的な支援</li> <li>法人化に向けた取組の加速化、地域外からの人材確保、異業種との連携</li> <li>計画的な経営継承の促進、青年層の新規就農促進</li> <li>移譲希望者と就農希望者とのマッチング、施設等の再整備・改修支援</li> <li>農業大学校等の専門職大学化など農業教育機関の高度化</li> <li>就農準備段階から経営開始後まで一貫して支援する地域の就農受入体制の充実</li> <li>ウェブサイトやSNS、イベントなどによる情報発信強化</li> <li>女性が能力を発揮できる環境整備と情報発信強化</li> <li>企業の農業参入促進</li> </ul>

<p>農業現場を支える 多様な人材や主体 の活躍</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 産地単位の連携・協働による統一的な販売戦略や共同販売</li> <li>• 収穫時など農繁期の臨時労働者など多様な主体の活躍促進</li> <li>• ドローンを使った作業代行等の農業支援サービスの定着</li> <li>• 多様な人材が活躍できる農業の「働き方改革」の推進</li> </ul>
<p>新たな需要に応え る園芸作物等の生 産体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 需要が拡大する加工・業務用野菜の生産体制強化</li> <li>• ドローンによる肥料・農薬散布の普及</li> <li>• ロボット、AI、IoT、環境制御技術等を活用したデータ駆動型農業への転換推進</li> <li>• 水田を活用した加工・業務用野菜の産地化</li> <li>• 複数産地の連携等による周年供給体制の構築</li> <li>• 生産の安定化・供給量調整等を行う新たな生産事業体創出</li> </ul>

## (2) 県の方向性、支援策

### ①第2次茨城県総合計画「新しい茨城」への挑戦(2022-2025年)

県の最上位計画である総合計画では、「強い農林水産業」を目指し、次のような農業政策を進めていくとしています。

農林水産業の成長産業化と未来の担い手づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 儲かる農業の実現のため、ブランド力向上のための品質向上や生産拡大、農地中間管理機構等と連携した意欲ある担い手への農地の集積・集約化や大区画化等の生産基盤整備等の推進</li> <li>・ 労働力人口の減少に対応するため、費用対効果を検証しながらスマート農林水産業の導入を進め、農林漁業者の生産性向上による経営発展の推進</li> <li>・ 経営者マインドを備えた人材を育成・確保するため、経営の発展段階に応じた学びの場の提供等による経営管理能力の向上や、企業等の参入の推進</li> <li>・ 就業希望者の円滑な就業と定着のため、新しい生活様式を考慮した情報発信や相談等の実施、関係機関や優れた経営者等と連携した人材育成の体制整備</li> <li>・ 生産者の所得向上のため、有機農業の振興やGAPの実践、6次産業化の取組及び県育成品種の活用等による農畜・難物の付加価値向上の推進</li> </ul>
県食材の国内外への販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特色ある農林水産物のブランド力向上と販路拡大のため、品質向上や生産拡大を図るとともに、食材フェアの開催や高級レストランへの売り込みなど、戦略的な営業活動の推進</li> <li>・ 意欲ある生産者等を支援するため、直接取引を希望する企業とのマッチング等により、新たな販路開拓の推進</li> <li>・ 農林水産物の輸出を促進するため、輸出に意欲的な産地と海外バイヤーとのマッチングや、海外量販店等におけるプロモーションの取組を通じた販路開拓の支援</li> </ul>
農山漁村の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農山漁村の活性化のため、地域資源を活用し観光とも連携した都市農村交流や、多面的機能の維持・発揮を図る取組、荒廃農地の発生防止・再生に向けた取組の促進</li> <li>・ 鳥獣被害を防止するため、若手の狩猟者を確保する取組や、侵入防止柵の設置、有害鳥獣の捕獲等、総合的な被害防止対策の促進</li> </ul>

## ②茨城農業の将来ビジョン（2023年5月策定）

### ◇ 本県農業の目指す姿と政策の方向性

#### （1）目指す2050年の姿

経営者マインドを備えた意欲ある担い手が県内各地に根ざし、国内外の消費者ニーズを的確に捉え、次世代に繋がる効率的で収益性の高い農業を安定的に実践するとともに、多様な人材と連携して地域農業をけん引

#### （2）政策の方向性

##### ア 意欲ある担い手が牽引する農業構造の実現に向けた政策の方向性

- ・ 本県農業を牽引する経営者マインドを備えた意欲ある担い手の育成・確保
- ・ 農業経営の法人化の推進
- ・ 県内外の農業法人等の参入及び異業種からの農業参入を促進

##### イ 収益性の高い農業構造の実現に向けた政策の方向性

#### ①分野別の政策の方向性

- ・ 米：高収益作物への転換や特色ある米作り、農地の集積・集約による大規模化など
- ・ 園芸：高品質な差別化商品の開発、ICT技術活用による生産性の向上など
- ・ 畜産：輸出を意識した常陸牛の生産体制の強化、常陸の輝きの品質向上など

#### ②分野横断的な政策の方向性

- ・ 有機農業による差別化
- ・ 輸出を意識した産地の形成
- ・ 加工による付加価値の向上
- ・ 地域の特性を活かした農業経営

### ◇ 本県農業を牽引する農業者及び法人の将来の姿

○経営者マインドを備えた意欲ある担い手が、多様化する消費者ニーズを的確に捉えるとともに、スマート農業技術などを活かすことで効率的な作業体系を構築し、質の高い経営を実践

○地元の農業者との連携により相乗効果が期待できる県内外の農業法人や農業参入を志向する異業種企業を新たな担い手と捉え、参入を促進

①本県農業を牽引する経営者マインドを備えた意欲ある担い手の育成・確保

②農業経営の法人化の推進

③県内外の農業法人等の参入及び異業種からの農業参入を促進

### ◇ 分野別の政策の方向性

#### 【米の生産構造の目指す将来の姿】

- ・ 国内の米需要の減少傾向を踏まえ、地域の状況に応じ、特色ある米づくりや高収益作物などへの転換を展開

#### 【施設園芸の目指す将来の姿】

- ・ 高度な環境制御技術の導入により、飛躍的な生産効率の向上と高付加価値化の実現

・水田からの転換による施設園芸産地の拡大

【露地園芸の目指す将来の姿】

- ・ 廉価販売から脱却し、付加価値の高い差別化商品へシフト
- ・ 多様な販路に対応できる生産体制を構築し、価格転嫁が可能な『選ばれる産地』として確立

【畜産の目指す将来の姿】

- ・ 神戸牛に匹敵する「常陸牛」の世界トップブランド化や規模拡大による儲かる経営への転換
- ・ 「常陸の輝き」のトップブランド化による「儲かる養豚経営」の実現
- ・ 飼料価格高騰や輸入状況に左右されない強い経営体の実現

◇ 分野横断的な政策の方向性

【有機農業と言えば「茨城」というポジションを確立】

- ・ 有機農産物の供給強化と販路拡大を急ピッチで進め、有機農業と言えば「茨城」というポジションを他県に先駆けて確立

【輸出による新たな販路開拓と海外での茨城ブランドの確立】

- ・ 輸出を意識した産地の育成
- ・ 輸出対応施設の整備など、海外向けの基盤整備を展開
- ・ 海外市場向けの生産・販売の取組を通じて、本県農業を牽引するグローバル人材を育成

【農産物の加工による茨城ブランドの確立】

- ・ 食品産業分野との連携や加工分野の取組強化により、収益性の高い生産・販売構造に転換
- ・ 地域ぐるみで取り組む6次産業化による地域産品の高付加価値化の実現

【地域資源を活用した特色ある農業の展開】

- ・ 中山間地域においては、規模拡大による生産性向上には制約があることから、畜産資源を活かした有機農業の推進など、地域の特色を活かした生産物の高付加価値化や、観光や食品加工等の異業種との連携などによる収益性の高い農業を実現
- ・ 規模拡大による生産性の向上が見込める平野部では、規模拡大をベースとした多様な選択肢を組み合わせ、所得向上を推進

## 第2期那珂市アグリビジネス戦略

# 1. 基本方針と基本目標

## (1) 基本方針

### 未来へつなぐ 作る喜び食べる喜び いい那珂農業

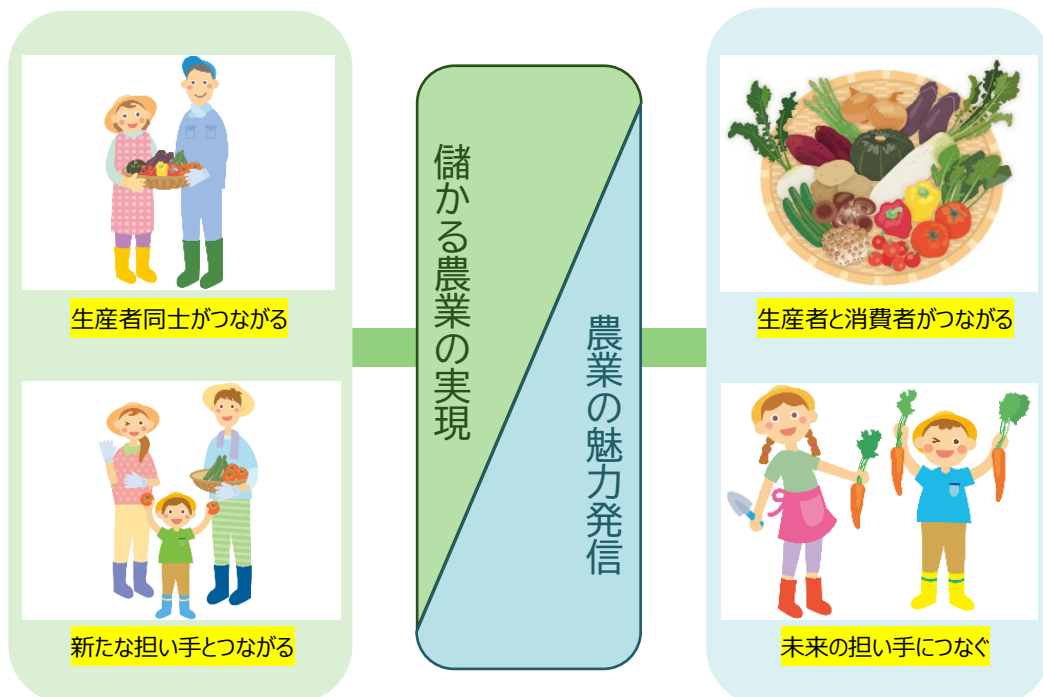
～儲かる農業へのチャレンジで豊かないい那珂暮らしを実現～

本市では米、麦などの土地利用型の大規模農業に取り組む生産者や、「こだわり」の野菜の生産によりブランド化を目指す意欲的な生産者が多く、こうした生産者がグループを作って活動をするなど、よりおいしい農畜産物の生産に切磋琢磨しています。

本市のアグリビジネスは、意欲ある生産者を集中的に支援し儲かる農業を実現していくことで、農業の魅力を高めて後継者や新規就農希望者を惹きつけ、円滑な就農と定着を促進し、同時に農業を通じた関係人口づくりに取り組んでいきます。

本市のアグリビジネスは、作る喜びをみんなで分かち合う（生産者同士がつながる）、作る喜びと食べる喜びがつながる（生産者と消費者がつながる）ことで、質の高い農畜産物を適切な価格で販売し、農業の収益力を向上させます。

また、自然の中で経済的にも豊かに暮らせる魅力的な農業で、市内外の農業をやってみたいと考えている人とつながり（新たな担い手とつながる）、さらに、農業の魅力を若い人に感じてもらい、那珂農業を未来へ受け継いでいく（未来の担い手につなぐ）ことを目指します。



## (2) 基本目標

序論でも述べたとおり、本計画は本市の「総合戦略」における「『農業で稼ぐ』いい那珂プロジェクト」を具体化するためのものです。総合戦略において本プロジェクトは「戦略1 安定した雇用の創出戦略」の中に位置づけられており、「農業生産・加工・販売促進に係る庁内関係各課の連携体制および市民との協働体制を確立し、農業のビジネス化を積極的に推進する」としています。

第1期プロジェクトは2つの柱として「農業の収益力向上」と「担い手の育成」を掲げていましたが、第2期プロジェクトでは、新たに「持続可能な農業の推進」の柱を加え、本戦略においてもこの3つを基本目標とします。また、この3つの目標の実現に向けた横断的な取り組みとして、「ICTやIoTの活用」を推進していきます。

### 基本目標1 農業の収益力向上

農業の収益力向上のための施策は、新たな販路となる道の駅の開業も予定していることから、「生産性の向上」と「売上高の増加」の2つの大きな方向性で展開していきます。

生産性の向上については、農地集約などによる経営規模の拡大を促進します。また、ICTを活用した生産・流通・消費の情報連携による適時適量生産に向けた取り組みや、IoTを活用した生産管理による収量向上や品質の安定化などにチャレンジしていきます。

売上高の増加については、品質向上やブランド化などによる「販売単価UP」と、地産地消・地産外商の拡大などによる「販売数量UP」を目的とした事業を推進します。

### 基本目標2 担い手の育成支援

担い手の育成のための施策は、「農業後継と新規就農の促進」と「農業関係人口の増加」の2つの大きな方向性で展開していきます。

農業後継と新規就農の促進については、那珂市農業担い手確保・育成協議会「MIRAI」を設立し、就農アドバイザーによる技術指導に加え、農地・農機・住宅の確保から地域生活に関する情報提供や相談対応など、定着に向けた包括的な支援を行います。

農業関係人口の増加については、就農相談会等による情報提供・相談対応に加え、農業体験や短期アルバイトなどにより、那珂市に訪れる機会の増加を図ります。

また、SNS等のインターネットを活用し、那珂市農業の魅力やイベント開催などの情報発信を強化し、那珂市との接点の増加を図ります。

### 基本目標3 持続可能な農業の推進

持続可能な農業のための施策は、「環境にやさしい農業の推進」を大きな方向性で展開していきます。

国が令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに耕作面積に占める有機農業の取組面積を25%（100万ha）に拡大し、農林水産業の二酸化炭素排出量の実質ゼロ化、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減など環境に配慮した持続可能な食料システム構築を図っています。

これらの状況を踏まえ、農業分野における新たな取組みとして、有機農業をはじめとした環境に配慮した農業を推進します。

#### ●目標指標

市の総合戦略における重要業績評価指標（KPI）には「事業実施による売上高」と「新規就農・認定農業者数」を設定しており、本計画において推進する事業のKPIも同様のものとします。

重要業績評価指標 (KPI)	現状値		目標値	
	2024年	3億6,800万円	2025-2029年 (最終年度)	8億5,000万円*
事業実施による売上高	2024年	3億6,800万円	2025-2029年 (最終年度)	8億5,000万円*
認定農業者数 (経営体・人)	2024年	96	2025-2029年 (最終年度)	108
新規就農数者数(累計) (経営体・人)	2024年	5	2025-2029年 (最終年度)	13

\*道の駅基本設計における農産物直売部門の売上額を含む。

## SDGsと農業

SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは、全ての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、経済・社会・環境を巡る広範な課題に統合的に取り組むもので、「すべての人に健康と福祉を」、「質の高い教育をみんなに」、「ジェンダー平等を実現しよう」、「働きがいも経済成長も」などの17の目標と、これを達成するための169のターゲットを掲げています。

本市では、このSDGsの視点を持って、様々な施策や事業を展開していくこととしており、以下に、農業分野におけるSDGsとの関わりを示します。

関連する目標	目標の説明	農業分野との関わり
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p>	<p>都市近郊で営まれる農業は、物流が途絶えるほどの災害が発生した場合などにおいて、市民の食料安全保障にもつながるものであり、市内農業の持続可能性を高めておく必要があります。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>包摂的かつ持続可能な経済成長、及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。</p>	<p>農業の持続可能性を高めるためには、将来にわたって担い手を確保していくことが必要です。そのため、働きがいのある魅力的な職業となるよう、収益力の向上を図っていく必要があります。</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進、及びイノベーションの推進を図る。</p>	<p>農業が持続可能な産業として発展していくためには、農地の集約による大規模化やICT等の新技術の活用等により、生産性の向上を図っていく必要があります。</p>
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>持続可能な生産消費形態を確保する。</p>	<p>食品の廃棄は、メタンの発生など地球温暖化にもつながる問題です。需要に合わせた適時適量生産や地産地消の推進などにより、廃棄を無くしていく必要があります。</p>
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。</p>	<p>農地には、様々な生き物が生息しており、耕作放棄による農地の荒廃や不法投棄の増加などは、生物多様性の損失につながるものです。そのため、農地を適切に使用管理していく必要があります。</p>
 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	<p>持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p>	<p>持続可能で魅力ある農業を実現していくためには、生産者と加工業者、流通業者、消費者等の連携、産学官の連携など、様々な形でのパートナーシップを活性化していく必要があります。</p>

## 2. 施策体系

# 「農業で稼ぐ」いい那珂プロジェクト

### 基本 目標

### 1 農業の収益力向上

### 2 担い手の育成支援

### 3 持続可能な 農業の推進

#### (1) 生産性の向上促進

- ① 経営規模の拡大促進
- ② スマート農業の推進

#### (2) 付加価値の向上促進

- ① いい那珂そだちの品質向上
- ② ブランド化の推進
- ③ 6次産業化の推進

#### (3) 地産地消の推進

- ① 学校給食への利用拡大
- ② 直売所・道の駅の利用促進
- ③ 農商工連携の推進
- ④ 実需者（飲食店・ホテル等）への販売拡大
- ⑤ 流通システムの合理化

#### (1) 農業後継・新規就農への支援

- ① 農業知識・技術習得支援
- ② 第三者継承の支援
- ③ 新規就農希望者への包括支援
- ④ 農地・農機具バンク機能の提供

#### (2) 「農業関係人口」づくりの推進

- ① 情報発信・相談対応の充実
- ② 農業を体験する機会の充実
- ③ 農業や食品加工を実践する学校との連携

#### (1) 環境にやさしい農業の推進

- ① みどりの食料システム戦略の推進
- ② 環境保全・資源循環型農業の意識の醸成

### 横断的 な 目標

### ICT・IoTの活用推進

## 3. 「農業で稼ぐ」いい那珂プロジェクトの推進

### 基本目標1 農業の収益力向上

#### (1) 生産性の向上促進

##### ①経営規模の拡大促進

- 付加価値の向上促進、地産地消・地産外商の推進による需要増加に対応するため、土地利用型の農業も含め、農地集約などにより生産能力の拡大を促進します。

##### ②スマート農業の推進

- ロボット、AI、IoTといった先端技術を農業に活用し、農作業の省力化、生産性向上、品質向上、そして技術継承を目指すため、スマート農業を促進します。

#### (2) 付加価値の向上促進

##### ①いい那珂そだちの品質向上

- セミナーや実技講習の実施や参加支援などにより、生産者の技術力を高め、那珂市産の農畜産物を「いい那珂そだち」としてさらなる品質向上を図ります。

##### ②ブランド化の推進

- 那珂野菜といえば「かぼちゃ」のイメージをさらに高めるため、品種などを吟味しながら通年でかぼちゃが楽しめる産地づくりを進めます。
- 戦略的に特産品としていく作物を検討し、「那珂かぼちゃ」と同様に品種や栽培方法等のルールを定めた「いい那珂そだち」の推進を図ります。
- 多様な「こだわり」野菜を「楽しんで」生産する本市の農業人（団体）をブランド化し、「指名買い」の増加などによる収益性の向上を促進します。
- 「いい那珂マルシェ」をはじめ、マッチングフェアや各種イベントPRブースへの出展などにより、市内外に那珂野菜の魅力を伝えていきます。

##### ③6次産業化の推進

- 那珂市産の農畜産物と市内外の多様な資源（ひと・もの・かね）を活用した「売れる商品」の開発を支援します。
- 那珂市産農畜産物の付加価値向上のため6次産業化の推進を図るとともに、那珂市を代表し消費者に支持される「うまいもん」の開発の創出を目的として、「求評会」を実施します。

#### (3) 地産地消の推進

##### ①学校給食への利用拡大

- 地場産会議で学校給食への納入計画を作成し、それに基づいた生産・納入をすることで、生産者の経営安定化を図るとともに、子どもたちに那珂市産の野菜への愛着を育みます。

## ②直売所・道の駅の利用促進

- 旬の野菜の食べ方の提案や特産品（加工品を含む）の活用などにより、直売所・道の駅の集客力と収益力の向上を図ります。

## ③農商工連携の推進

- すでに6次産業化が成立している商品について、原料の生産促進と加工販売業者とのマッチング支援により、生産・販売の拡大を図ります。
- 市内外の実需者との連携を支援し、OEM生産による商品開発及び農畜産物の需要拡大を図ります。

## ④実需者(飲食店・ホテル等)への販売拡大

- 近隣市町村の飲食店やホテルなどのニーズの把握等、実需者とのマッチングを支援します。
- 米、そば、麦、野菜、肉に加えて店内を飾る花まで、「オール那珂」でなんでも揃うことをPRしていきます。

## ⑤ 流通システムの合理化

- 直売所既存の販売体制に加え、生産者と実需者間における受発注の利便性の向上を図るため、デジタル技術を用いたB to Bプラットフォームを活用し、需要者のニーズ把握及び帳票業務の効率化を図るとともに、那珂市産の農畜産物の販路拡大、生産者の収益向上を図ります。
- 直売所にAI機能を用いた農畜産物の需要予測サービスを活用し、販売の可視化につなげることによって、直売所、出荷者の所得向上を図ります。

## 基本目標2 担い手の育成支援

### (1) 農業後継・新規就農への支援

#### ①農業知識・技術習得支援

- 先進農家による親元就農者や新規就農希望者への研修の受入を支援します。

#### ②第三者継承の支援

- 後継者不在で廃業または経営規模縮小を検討する生産者と新規就農希望者とのマッチング、定着までの生活支援や引継ぎのための農地転貸の手続きの支援などにより、遊休農地の拡大防止を図ります。

#### ③新規就農希望者への包括支援

- 農業への新規参入を促進するため、農地や農家住宅の取得要件の緩和等の検討を進めます。
- 新規就農希望者が地域での生活を送るにあたって、就農以外の心配ごとを減らし、地域に馴染んでいけるよう、庁内関係各課や市民と連携します。
- 那珂市農業担い手確保・育成協議会「MIRAI」において、就農希望者の作型にあわせた就農研修カリキュラムを設定し、研修を行います。
- 農業研修期間中の研修生への支援を関係機関と連携し支援します。
- 独立就農だけでなく、農業法人等への雇用就農など就農希望者の意見を踏まえながら支援を行います。

#### ④農地・農機具バンク機能の提供

- 転貸希望の農地や使用していない農機具の情報等を収集し、貸出を仲介するなど、新規就農者の初期投資の抑制を支援します。

### (2) 「農業関係人口」づくりの推進

#### ①情報発信・相談対応の充実

- 就農希望者が集うフェアや就農相談会において情報提供や相談対応を強化します。
- 感染症等により往来が困難な状況においても就農希望者に情報が伝わるよう、SNS等のインターネットを活用したプロモーションを推進します。



#### ②農業を体験する機会の充実

- 農業を体験してみたい人、短期間働いてみたい人や農業に興味のある学生向けに体験メニューを提供し、農業による関係人口づくりを推進します。

#### ③農業や食品加工を実践する学校との連携

- 農業高校や調理専門学校等と連携し、農業の生産や販売、成分分析、食品加工などにおいて、地域の若者の力、知恵、アイデアなどを活かします。

## 基本目標3 持続可能な農業の推進

### (1) 環境にやさしい農業の推進

#### ①みどりの食料システム戦略の推進

- 有機農業実施計画に基づく有機農業の生産・流通・消費を一体的に推進します。
- 有機農業実施計画の評価及び見直し等の検討・検証をします。
- 有機農業セミナーや実技講習を行います。
- 関係機関と連携し、有機農業に取り組む生産者に支援を行います。

#### ②環境保全・資源循環型農業の意識の醸成

- 関係機関と連携して、環境にやさしい農業への取り組み方法等の研修を行います。
- 減農薬・減化学肥料の取り組みへの意識醸成の推進を図ります。



## 横断的な目標 ICT・IoTの活用推進

店舗への納入や消費者への直売などを推進するにあたっては、生産や流通、販売管理能力の向上が必須となりますが、それらを人手だけで解決することは非常に困難であるため、ICTやIoT等を活用した新しいシステムの導入が必要になっていきます。また、土地利用型農業において広い圃場を効率的に管理していくうえでも、ICTやIoT技術の導入が今後必要となってきます。

なお、こうしたシステムがきちんと機能するためには、ICT等が苦手な人でも利用でき、そのメリットを感じて十分に活用されることが非常に重要となるため、機能の少ない分かりやすいシステムの導入からスタートし、使いながら機能を拡充していくことが有効とされています。

- ICTを活用した生産者の出荷予定、直売所の販売状況、飲食店や消費者のニーズなどの情報連携と販売管理のシステムとして、直売所にAIを活用した農畜産物の需要予測サービスを導入し、販売の可視化につなげることによって、効率的な集出荷、販売ができる仕組づくりにより、直売所の売上げおよび出荷者の所得向上を図ります。
- 直売所既存の販売体制に加え、生産者と実需者間における受発注の利便性の向上を図るため、デジタル技術を用いたBtoBプラットフォームを形成し、需要者のニーズ把握及び帳票業務の効率化を図るとともに、那珂市産の農畜産物の販路拡大、生産者の収益向上を図ります。
- IoT等を活用したスマート農業への取組により、省力化や高品質野菜の安定生産を実現し、生産性・収益性の向上等による農業の魅力向上を目指します。

# 參考資料

## 用語集

あ行	アンテナショップ	企業や地方自治体などが、自社や地元の製品を広く紹介したり、消費者の反応を探ったりする目的で開設する店舗。
か行	環境保全型農業	農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業。
	黒ボク土	日本でよくみられる土壌の一つ。主に火山灰から発生する土壌で、水はけ、水もちがよく柔らかいという特徴があり、畑作物の栽培等に利用されている。
	広域銘柄推進産地	産地間競争が激化する中、高品質で、信頼性・安全性が市場で高く評価され、茨城県を代表する農産物の生産地を育成することを目的として、銘柄産地制度により、県から指定を受けた産地。
さ行	女性農業士、青年農業士	農業の担い手確保や地域農業の活性化に取り組む農業者として、県から認定を受けた人。
	スマート農業	ロボット技術や情報通信技術などの先端技術を活用し、農業の「省力化・生産性向上」、「高品質化」、「環境負荷低減」を目指す農業。
た行	地域おこし協力隊	地方自治体から委嘱されて都市部から地方へ移住し、地域おこし支援を行なう人材。
	地域団体商標	地域の産品等について、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として2006年4月1日に導入された商標。「地域名＋商品名」の組み合わせからなる文字商標が対象となる。
	特別栽培農産物	慣行レベルに比べて、削減対象農薬の回数が50%以下、化学肥料の窒素成分量が50%以下で栽培された農産物。
な行	認定新規就農者	新たに農業を始める青年で、「青年等就農計画」を作成し、市町村等からの認定を受けた農業者。認定を受けた農業者は、効率的かつ安定的な農業経営を行なうための支援を受けることができる。
	認定農業者	自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画（農業経営改善計画）を作成し、市町村等からの認定を受けた農業者。認定を受けた農業者は、計画達成に向けた支援を受けることができる。
	農業経営体	農産物の生産を行なうか、または委託を受けて農業作業を行っており、生産または作業に係る面積や頭羽数が、農林水産省が行なう統計調査である農林業センサスにおける規定の基準以上である事業者。
	農場HACCP	HACCP（ハサップ）は、食品を製造する過程で発生しうる食品衛生上のリスク（微生物や異物の混入等）について、作業工程の分析・管理・記録をすることでリスクを未然に防ぐ衛生管理手法のこと。農場HACCPは、畜産農場にHACCPの考え方を取り入れることで、生産農場段階での衛生上のリスクを防止し、畜産物の安全性を確保する手法を指す。

や行	有機農業	化学的に合成された肥料や農薬を使用せず、遺伝子組み換え技術も利用しないことを基本とし、環境への負担をできる限りで低減した農業生産の方法
	遊休農地	農地法により定義づけられる用語で、「1.現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地」「2.その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣っていると認められる農地(1.の農地を除く)」と定義される。
ら行	6次産業化	農林水産業(第1次産業)の従事者が、生産だけでなく、生産物の製造・加工(第2次産業)、流通・販売(第3次産業)に取り組むことで、生産物の価値を引き上げ、所得の向上や雇用創出、生産拡大といった事業の活性化を目指す取り組み。
A	AI	人工知能ともよばれる。さまざまな定義があるが、一般には学習や状況判断といった人間の知能のような機能を備えたコンピュータを指す。
E	ECサイト	ECは「electronic commerce(電子商取引)」の略で、ECサイトはインターネット上で商品やサービスを販売するウェブサイトのこと。
G	GAP	「Good Agricultural Practice(農業生産工程管理)」の略。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことで、GAPに取り組むことにより、持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化、消費者や実需者の信頼の確保が期待できる。
I	ICT	「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略。インターネットなどの通信技術を用いたコミュニケーションや情報の伝達を指す。
	IoT	「Internet of Things(モノのインターネット)」の略。身の周りのさまざまなモノをインターネットに接続し、データをやり取りすることで、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行なう仕組みのこと。
K	KPI	Key Performance Indicator の略で、日本語に訳すと「重要業績評価指標」という意味。KPI とは目標と達成する上で、その達成度合いを計測・監視するための定量的な指標のこと。
S	SNS	「Social Networking Service」の略。インターネットを通じてコミュニケーションを取ったり、人間関係を構築したりすることができるウェブサービスのこと。



ふつうに旨い。  
だから、ここでは旨いがふつう。



いなな いなな やさい  
いなな いなな やさい

茨城県那珂市は水戸のちよっと北、  
いい具合に出産の環境で、  
のびのび暮らしをたのしめるところです。  
だから、野菜もののびのび育っています。